

太田川水系のハザードマップ

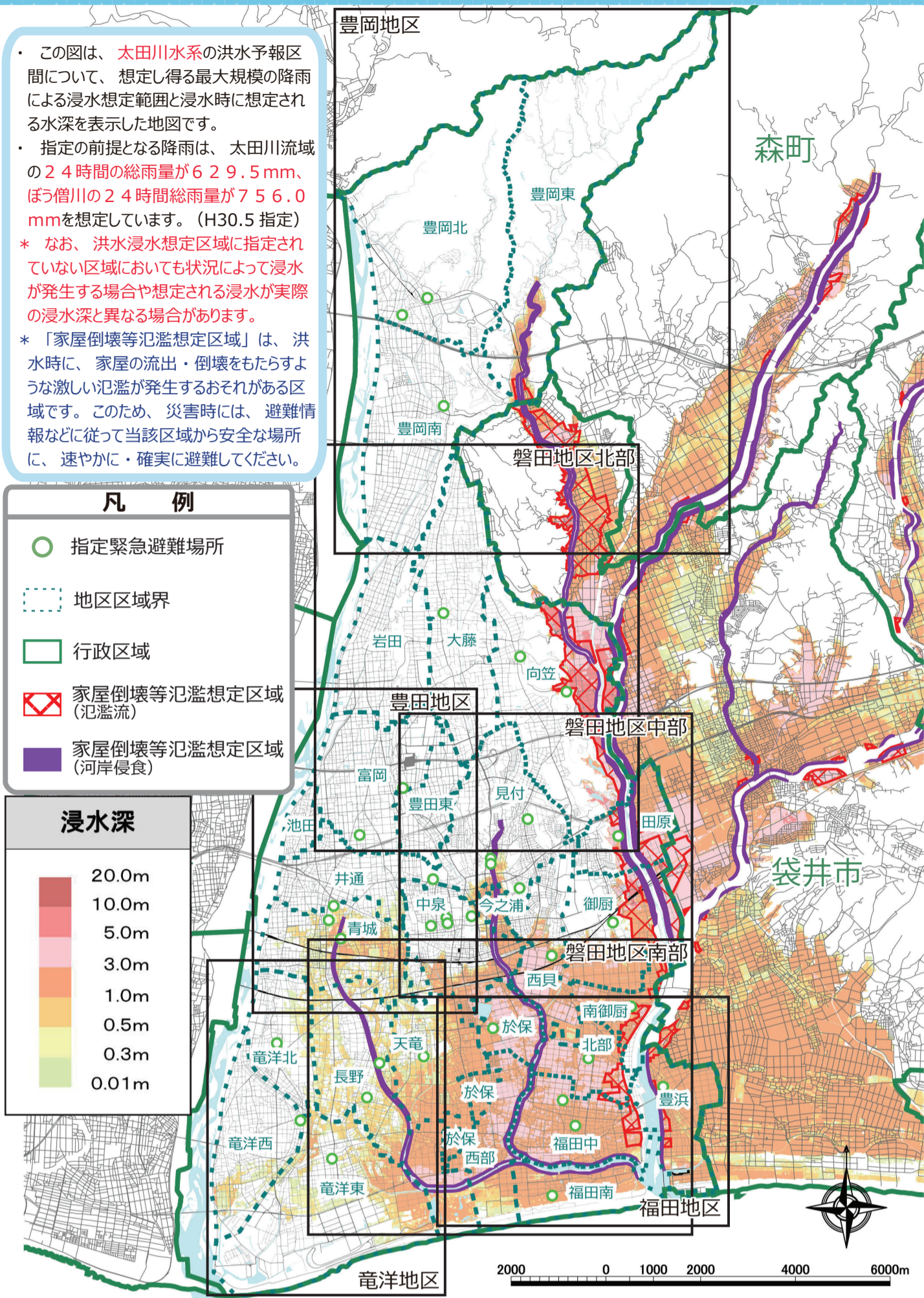
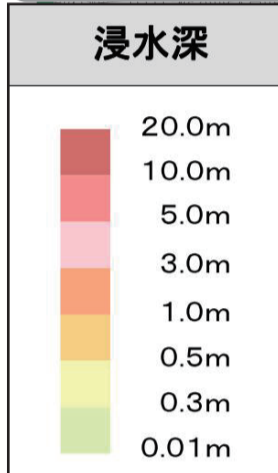
この図は、太田川水系の洪水予報区間に、想定し得る最大規模の降雨による浸水想定範囲と浸水時に想定される水深を表示した地図です。

指定の前提となる降雨は、太田川流域の24時間の総雨量が629.5mm、ぼう僧川の24時間総雨量が756.0mmを想定しています。(H30.5指定)

* なお、洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても状況によっては浸水が発生する場合や想定される浸水が実際の浸水深と異なる場合があります。

* 「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、洪水時に、家屋の流出・倒壊をもたらすような激しい氾濫が発生するおそれがある区域です。このため、災害時には、避難情報などに従って当該区域から安全な場所に、速やかに・確実に避難してください。

- ### 凡例
- 指定緊急避難場所
 - 地区区域界
 - 行政区
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)



災害から命を守るために / 円滑な避難をするために

「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えをいつからはじめるのか、考えてみましょう！

時間経過例	河川の状況等	行政から発信される情報	備えの例
3日前	台風が発生 警戒レベル1	黒：気象情報 青：河川事務所 緑：磐田市 ○台風予報 ○台風に関する気象情報(随時)	○テレビの天気予報を注意 ○ハザードマップで避難場所、避難手段を確認
2日前	台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる 警戒レベル2	◇大雨注意報・洪水注意報 ○台風に関する今後の見通し	○避難する時に持って行く物を準備する ○家の周りに風で飛ばされるようなものはないか確認 ○テレビ・インターネット・メール等で雨や川の様子に注意 ○家族全員の今後の予定を確認
1日前	雨が集まって、川の水がだんだん増える	水防団待機水位到達 氾濫注意水位到達 洪水予報(氾濫注意情報)発表 避難場所の開設準備	○住んでいる所と上流の雨量を調べ始める ○川の水位を調べ始める ○携帯電話の充電 ○通行止めの情報がないかインターネットで確認 ○避難しやすい服装に着替える
半日前	激しい雨で、川の水がどんどん増えて、河川敷にも水が流れる	避難判断水位到達 洪水予報(氾濫警戒情報)発表 高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 ○川の水位・気象情報をインターネットで確認 ○市内の指定避難場所や安全な場所(親戚宅や知人宅)への避難を判断 ○移動に時間のかかる人は、市内の指定避難場所や安全な場所(親戚宅や知人宅)への避難開始を判断 ○安全な所へ移動を始める
5時間前	川の水がいっぱいであふれそう 警戒レベル3	氾濫危険水位到達 洪水予報(氾濫危険情報)発表 緊急速報メール(河川氾濫のおそれがある情報) 避難指示	危険な場所から全員避難 ○市内の指定避難場所や安全な場所(親戚宅や知人宅)への避難を完了
3時間前	川の水が氾濫 警戒レベル4	氾濫が発生 洪水予報(氾濫発生情報)発表 緊急速報メール(氾濫が発生した情報) 緊急安全確保	災害発生又は切迫した状態
0時間			

雨風が強くなる前に
行うべき事項をすませておく時期
水位等の状況を把握しつつ避難に要する時間を開始する時期
身の安全を確保すべき時期



避難の際の心得

避難先・避難ルートを確認する

浸水に対して安全な避難先とルートを手前から家族や地域で確認しておきましょう。避難先は必ずしも市が準備した避難場所である必要はありません。安全な親戚宅、知人宅、職場なども避難先の選択肢になり得ます。



避難の方法を確認する

自家用車での避難は、道路冠水や交通渋滞に巻き込まれる可能性もありますのでやめましょう。どうしても自家用車での避難をしたい場合は、さらに早めの避難開始が重要です。避難は原則として、市指定の避難場所や安全な場所(親戚宅や知人宅)への「立ち退き避難(水平避難)」です。自宅の上階に留まること等により身の安全を確保する「屋内安全確保」はハザードマップ等を確認し、自ら判断する必要があります。

立ち退き避難

その場で立ち退き、近隣の少しでも安全な場所や避難場所等に避難すること。



水平避難とも言います！

緊急安全確保

立ち退き避難が安全にできない場合、命を守るため少しでも安全な場所に移動すること。



避難に際して心がけること

避難とは **難** を **避** けること、**安全を確保すること** です。安全な場所にいる人は、避難する必要はありません。

実際に避難する際には、以下の点に心がけましょう。

早めの避難

浸水してからの避難は危険です。降雨や河川水位などの情報をもとに、身の危険を感じたら避難情報を待たずに自主的に避難を開始してください。

ご近所への声かけ

単独での避難は、思わぬ事態が起きた時に危険です。避難する前に隣近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。

豪雨時の避難

豪雨時の屋外避難は危険です。車の移動も控えましょう。

避難する際(やむなく浸水の中を歩く時)の注意

避難するときの荷物は必要最低限としましょう。



高齢者や身体の不自由な人などは背負って避難しましょう。



長靴や裸足は禁止です。運動靴をはきましょう。



歩ける深さは、膝下までです。水深があるようなら高いところで救助を待ちましょう。



動きやすい服装で、2人以上での行動を心掛けましょう。



長い棒を杖代わりにして、水の中の障害物に注意しましょう。



日頃の備え

建物周囲の安全確認

家の周囲にも災害が発生すると危険なところがたくさんあります。日ごろから危険箇所がないか点検を心がけましょう。

<p>雨水桝や側溝の清掃</p>	<p>家の修理(屋根瓦のずれ、雨どいのつまり)</p>	<p>風でとばされそうなものの安全対策</p>	<p>土嚢の準備</p>
------------------	-----------------------------	-------------------------	--------------

非常持出品などを準備する

非常持出品や備蓄品を準備しましょう。また、自分や家族にとって欠かせないものを検討して追加しましょう。

最低限備える「災害時の必需品」	2~3日分備える「非常持出品」	1週間分以上備える「備蓄品」
<ul style="list-style-type: none"> 災害は突然発生します。「自分にとって、わが家にとって」災害時に必要なものを整理し、いざという時に備えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所で1~2泊くらいできるくらいの水・食料・生活用品を準備しましょう。 日ごろから非常持出品などにまとめ、すぐに持ち出せる場所に用意しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期の孤立に備え、水や食料などの備蓄品は最低限3日分、できれば1週間分準備しましょう。また、備蓄食料のうち3日分はできるだけ調理不要なものを用意しましょう。

防災用品チェックリスト

非常持出品に入れておくもの		非常持出品に入れておくもの	
品名	準備完了✓	品名	準備完了✓
リュックサック(非常持出品用)		衣類・下着	
飲料水		寝袋・ブランケット	
非常食(調理不要なもの)		軍手・タオル・ウェットティッシュ	
携帯ラジオ・懐中電灯		貴重品(現金・通帳・保険証)	
乾電池		医薬品(常備薬・救急セット)	
携帯電話(充電器・バッテリー)		マスク・アルコール消毒液・体温計	
雨具(カッパ)		個別に必要なもの(介護用品・生理用品・ベビー用品)	

1週間分の目安(1人分)

飲料水

1日3リットル x 7日 = 21リットル

食料

3食 x 7日 = 21食

カセットコンロ・カセットボンベ

あたたかい食事を調理できます

ボンベ1本で1.5ℓのお湯が約10回つくれます

ローリングストック法(回転備蓄)

日ごろ使う食料や非常用の食料品を、消費しながら備蓄していく方法。

食べたら... 買い足す!